

当院での総合診療専門研修とキャリアパス

道立羽幌病院で「総合診療」専門研修を行う場合は、以下のようなキャリアパスが考えられます
 多様性のある研修や働き方が可能で、自分の志向や希望に合ったキャリアパスを選択できます
 * 他院で総合診療専門研修を修了した場合でもほぼ同様ですが、研修の年数等が変わりますのでご相談ください

* このグレー部分は羽幌病院で研修や勤務できる部分です

家庭医療志向の場合

総合診療領域のサブスペシャリティ研修 「新・家庭医療専門研修」

(日本プライマリ・ケア連合学会による認定)
 総合診療専門研修後に羽幌病院で「家庭医療」領域の研修を行うことにより認められます。
 追加での研修期間はこの場合は1年間です。
 総合診療研修開始時に研修の申請が必要です。

「新・家庭医療」と「病院総合診療」の同時研修の可否は現在確認中です

病院総合診療志向の場合

総合診療領域のサブスペシャリティ研修 「病院総合診療専門研修」(現在申請中)

(日本病院総合診療医学会による認定)
 総合診療専門研修後に認定施設での一定期間の研修を行うことで認められます。
 総合診療専門研修期間中の学会認定施設研修期間
 1年間の場合：追加2年
 2年間の場合：追加1年
 道立羽幌病院か砂川市立病院の研修となります

地域で実践&ステップアップの場合

羽幌病院のスタッフ (& 興味のある領域での研修)

もしこの地域での医療の継続に興味があれば、研修修了後、羽幌病院スタッフとして残留できます。後輩となる専攻医の指導にもあたります。定期的な再研修を受けたい場合、北海道職員として公務員の身分を継続しながら、希望する領域の研修を他の医療機関等に行くことができます。
 (この制度には定員や期間などの条件があります)

内科とのダブルボードを目指す場合

「内科」専門研修

総合診療と内科は親和性のある基本領域であり、ダブルボード(両方の資格を保有する)の際に、研修期間の短縮などの配慮がされます。総合診療専門研修中の研修内容によって、研修期間は1年から2年となります。内科研修プログラムのある施設に勤務となります。当院でも勤務を希望する場合は、連携施設として当院が登録されているプログラム所属で可能です。

総合診療領域サブスペシャリティ研修
新・家庭医療
 (1年間)

総合診療領域サブスペシャリティ研修
病院総合診療
 (1~2年間)

羽幌病院 スタッフDr

興味のある領域
 ・緩和ケア
 ・リハビリ
 ・感染症
 ・医学教育
 ・医療経営
 ・公衆衛生
 など

内科

基本領域
 (1~2年間)

総合診療

基本領域
 (3年間)

初期研修

* 総合診療の専門研修だけでももちろんかまいません。
 当院以外の医療機関でも、研修中に学んだ知識を活かして活躍できます。

専門研修の流れ

下記は例になります。研修領域の順番は、自治医大卒業生や地域枠医師、専攻医数などにより異なる場合があります。また医療機関名は例示です。

専門研修の流れをサブスペシャリティ領域も含めてお示しします。
基本領域である「総合診療」のみの場合は、1年次から3年次までが該当部分となります。

家庭医療志向の場合（4年間） 総合診療専門研修をベースに新・家庭医療専門研修1年が追加

1年次	内科（12ヶ月）		
2年次	総合診療/家庭医療Ⅰ（12ヶ月）		
3年次	救急（3ヶ月）	小児科（3ヶ月）	総合診療/家庭医療Ⅱ（6ヶ月）
4年次	家庭医療Ⅰ（12ヶ月）	<small>「総合診療Ⅰ」と「家庭医療Ⅰ」で合計18ヶ月以上かつ同一施設で12ヶ月連続研修 「総合診療（家庭医療Ⅰ）」と「総合診療（家庭医療Ⅱ）」で合計24ヶ月が必要</small>	

	1年次	2年次	3年次	4年次
例①	道立羽幌病院 （内科）	道立羽幌病院 （総診Ⅰ/家庭Ⅰ）	砂川市立病院 （救）（小）（総診Ⅱ）	道立羽幌病院 （家庭医療Ⅰ）
例②	砂川市立病院 （救）（小）（総診Ⅱ）	道立羽幌病院 （内科）	道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ/家庭医療Ⅰ）	
例③	市立旭川病院 （内科）	砂川市立 留萌市立 （救）（小）（総診Ⅱ）	道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ/家庭医療Ⅰ）	自由 （選択研修）

例①：羽幌病院で内科や総合診療の基本を身に付け、総合病院で実践、再度羽幌へ戻ります（推奨）
例②：同一施設が3年連続になりますが、継続した医療を学ぶことができます。
例③：最低限の条件を満たしつつ、4年次では6カ月間の自由な選択研修を選択することができます。

病院総合診療志向の場合（4年間） 総合診療専門研修をベースに病院総合診療専門研修1年が追加

1年次	内科（12ヶ月）		
2年次	総合診療Ⅰ（12ヶ月）		
3年次	救急（3ヶ月）	小児科（3ヶ月）	総合診療Ⅱ（12ヶ月）
4年次	病院総合診療（12ヶ月）		

	1年次	2年次	3年次	4年次
例①	道立羽幌病院 （内科）	道立羽幌病院 （総合診療Ⅰ）	砂川市立病院 （救）（小）（総診Ⅱ）	道立羽幌病院 （病院総合診療）
例②	道立羽幌病院 （内科）	道立羽幌病院 （総診Ⅰ）	砂川市立病院 （救）（小）（総合診療Ⅱ）	道立羽幌病院 （病院総合診療）

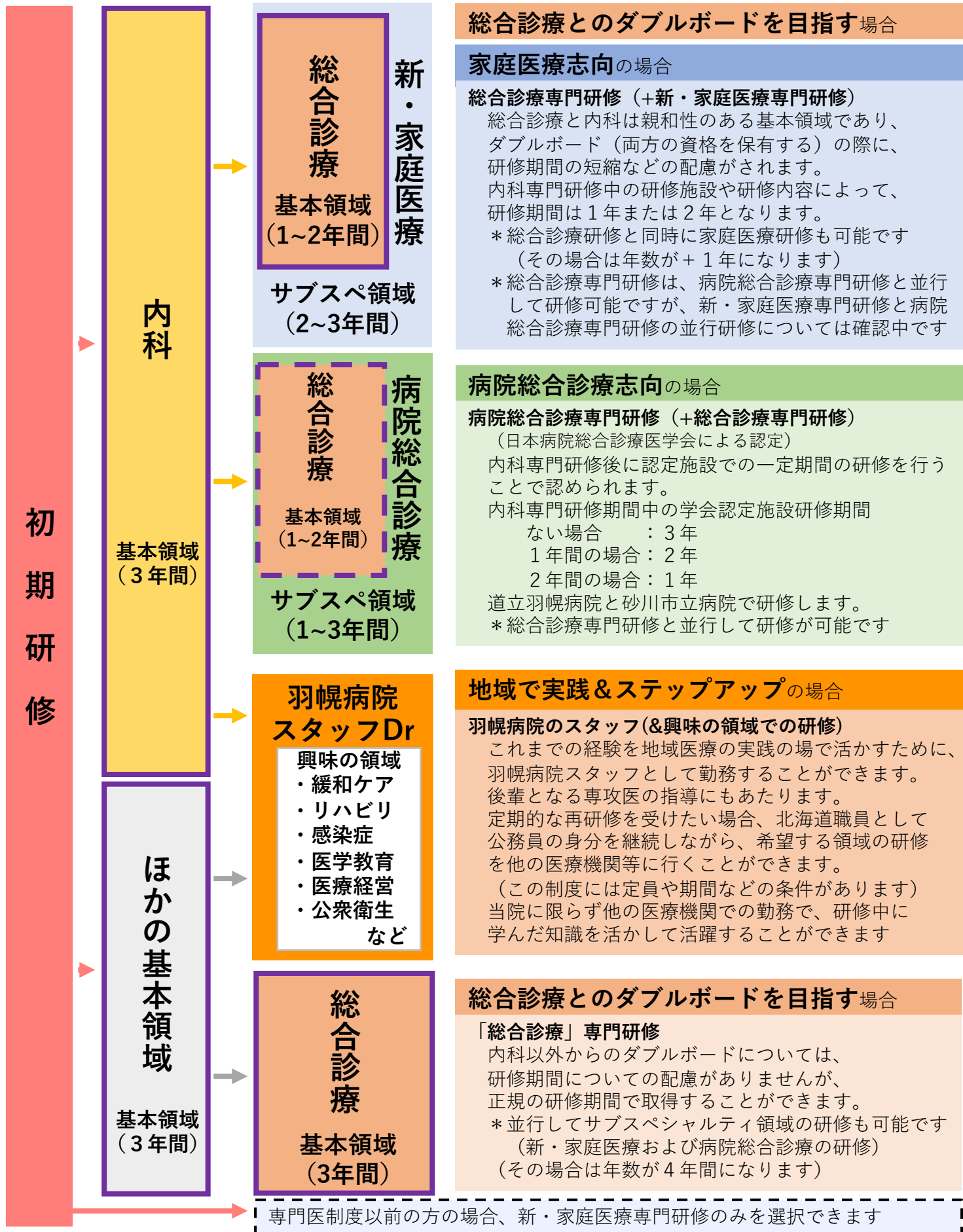
研修施設は、道立羽幌病院と砂川市立病院となっており、この2カ所での研修となります
例①：総合診療Ⅰが長めの総合診療専門研修 例②：総合診療Ⅱが長めの総合診療専門研修

内科とのダブルボードを目指す場合（総合診療3年＋追加1～2年間）

総合診療専門研修期間中の「内科」12ヶ月は「内科」研修とみなされ、12ヶ月の研修が免除となります。また、「総合診療Ⅱ」の期間が12ヶ月あり、内科指導医がいた場合など諸条件を満たした場合は研修期間とみなされ、さらに12ヶ月免除となります。そのため、追加の内科研修は所定の3年間から上記を引いた年数となります。ダブルボードの希望がある場合はローテーションを配慮しますのでお知らせください。

ほかの専門研修後の当院における専門研修・勤務

ほかの病院で「総合診療」以外の基本領域の専門研修を修了した後の方でも、当院の有するプログラムに入ることができるほか、スタッフとしても歓迎しております



「内科」専門研修を終えた後で、ダブルボードを希望する場合の流れをお示しします。

総合診療とのダブルボードを目指す場合（1~2年間）

内科専門研修後の場合、総合診療専門研修で必要な「内科」12ヶ月が免除となります。

1年次	総合診療Ⅰ/家庭医療Ⅰ（12ヶ月）		
2年次	救急（3ヶ月）	小児科（3ヶ月）	総合診療Ⅱ/家庭医療Ⅱ（6ヶ月）

また、内科専門研修期間のうち12ヶ月を「内科」と「総合診療Ⅱ」の両方の認定施設で研修を行った場合は、さらに12ヶ月免除され、1年間のみ総合診療専門研修となります。

1年次	総合診療Ⅰ（6ヶ月）	救急（3ヶ月）	小児科（3ヶ月）
-----	------------	---------	----------

家庭医療志向の場合（2~3年間）

総合診療専門研修をベースに新・家庭医療専門研修1年が追加

上記の総合診療専門研修修了後に1年間道立羽幌病院での「家庭医療Ⅰ」研修を行います。

2 or 3年次	道立羽幌病院：家庭医療Ⅰ（12ヶ月）
----------	--------------------

病院総合診療志向の場合（1~3年間）

総合診療専門研修をベースに病院総合診療専門研修1年が追加
病院総合診療専門研修単独でもよい

内科専門研修後で総合診療専門研修を行う場合、上記の総合診療専門研修と並行して研修します。道立羽幌病院と砂川市立病院で研修し、最終年は病院総合診療専門研修を道立羽幌病院で行います。内科専門研修期間中の日本病院総合診療医学会認定施設在籍年数が最大24ヶ月免除されます。

内科専門研修後で総合診療専門研修を行わない場合は、1~3年間道立羽幌病院で研修します。

1~3年次	道立羽幌病院：病院総合診療（12~36ヶ月）
-------	------------------------

地域で実践&ステップアップの場合

【道立羽幌病院フェロシップ制度（仮称）】

道立羽幌病院のスタッフとなった場合、希望があれば定期的な再研修制度を活用できます。羽幌病院で得られないスキルを学ぶために、道職員の身分を継続したままで、他の医療機関等に一定期間研修に行き、その成果を羽幌病院に還元いただく制度です。

- 3年制：2年間の道立羽幌病院勤務を義務とし、1年間の研修等を認めるもの

	1年目	2年目	3年目
例	道立羽幌病院		研修

- 5年制：3年間の道立羽幌病院勤務を義務とし、2年間の研修等を認めるもの

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
例	道立羽幌病院		研修		道立羽幌病院

* この制度は、定員・研修先などに制約があります。

* 研修期間中も道立羽幌病院のスタッフであることから、定期的な研修成果の報告をお願いするほか、道立羽幌病院における勤務等が入る場合もあります。